

令和元年度最上校卒業証書授与式 御祝辞

最上町長 高橋 重美 様

令和元年度山形県立新庄北高等学校最上校の卒業証書授与式にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日、この佳き日に、晴れて卒業の日を迎えられました二十三名の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。最上校での三年間、皆さんは、最上町の恵まれた環境や歴史、文化、そして地域の人々との触れあいの中で、豊かな心とたくましい身体を育んでまいりました。高校生の持つエネルギーで生き生きとした行動や、新しい文化の創造に挑戦する姿は、町民に元氣と感動を与えてくれました。ここに改めて、最上町長として厚くお礼申し上げます。

平成から令和へと、節目となりました今年度は、七十年を超える最上校の歴史の中でも大きな危機を迎えた年でありました。「二年続けて定員の半分を割り込んだ場合、翌々年は生徒募集をしない」という県教育委員会が定めた規則により、年々進む少子化の中で、もし令和二年度の入学者が二十名を下回れば閉校となってしまうという恐れがありました。生徒の皆さんにとっても最上町にとっても最上校はなくてはならない学校です。その存続のため皆さんの先輩や地域の人たちが、いち早く「最上校の存続を望む会」を組織し、活動を始めて頂きました。その結果、ご存知のように県教育委員会からは、これまでの規則を見直し、単に生徒数の減少だけでは閉校はしないという決定をして頂いたところです。

このような結論を出して頂いたことは「最上校の存続を望む会」などの多くの支援があつたことはもちろんですが、

実は、ここにいる生徒の皆さんと先生方が、小規模校としての最上校の良さをしっかりと積み上げてきたことが一番大きな力となったものと思うところです。

最上校の小規模校の特色を生かした一人一人の学びの充実や、先生と生徒、地域の方との密な関わりなど他の学校には見られない実績が評価され、改めて小規模校の持つ意義を認識させられた県教育委員会が今回の決定を行つたものと確信するところであります。

卒業生の皆さんは、県教育委員会さえも動かしたこの三年間の学びに自信と誇りを持ち、これからの人生においても一步一步着実に前進して行ってください。皆さんの活躍を大いに期待いたします。在校生の皆さんも、卒業生の活躍を受け継ぎ、末永く最上校が輝き続けられるよう、魅力ある学校生活を自らの手で創り上げてください。町としても、最大限の力をもって皆様を支えてまいります。

さて、卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にめでとうございます。成長したとはいえ、まだまだ心配されることも多いことと思いますが、町といたしましてもこれまで以上に応援する所存でありますので、共に手を取り見守っていきましょう。

むすびに、生徒とともに歩み、寄り添い、一生懸命に育てて頂きました校長先生はじめ教頭先生、そして全ての教職員の皆さまに心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

二十三名の卒業生の皆さんがこれからの人生において幸多からんこと心より祈念し、卒業にあたってのお祝いの言葉とさせていただきます。